コロナ禍におけるサードプレイスと主観的幸福感に関する考察

橋本　成仁[1]・今村　陽子[2]・海野　遥香[3]・堀　裕典[4]

[1]正会員　岡山大学学術研究院環境生命科学学域教授（〒700-8530 岡山県岡山市北区津島中三丁目1-1）
E-mail: seiji@okayama-u.ac.jp

[2]非会員　岡山大学大学院　環境生命科学研究科（〒700-8530 岡山県岡山市北区津島中三丁目1-1）
E-mail: pi2t5ujo@s.okayama-u.ac.jp

[3]正会員　東京理科大学助教　理工学部土木工学科（〒278-8510 千葉県野田市山崎2641）
E-mail: unoharuka@rs.tus.ac.jp

[4]正会員　岡山大学学術研究院環境生命科学学域准教授（〒700-8530 岡山県岡山市北区津島中三丁目1-1）
E-mail: hiorfumihori@okayama-u.ac.jp

近年，「サードプレイス」という概念が浸透してきている．サードプレイスとは，家と職場以外の第3の居場所とされ，1989年に孤独感やコミュニティの欠如などの課題を低減させるためにその必要性が提唱された．また，コロナ禍において，人との交流が制限された世の中におけるサードプレイスについての研究はみられない．そこで本研究では，コロナ禍において，主観的幸福感尺度（SWLS）を用いることにより，サードプレイスを持つことが主観的幸福感にどのような関連性があるかを明らかにすることを目的とする．結果として，サードプレイスを持つ人が主観的幸福感が高く，5～10年前から訪れていたサードプレイス，職場から訪れているサードプレイスを持つ人が主観的幸福感が高いことが示された．

Key Words : *third place, subjective well-being, COVID-19*

1.　背景と目的

近年，生活の質を向上させるものとして「サードプレイス」という概念が注目されている．サードプレイスは，1989年にアメリカの社会学者Ray Oldenburgの著書で提唱された概念である．第二次世界大戦後のアメリカにおいて，孤独や孤立による幸福感の低下，コミュニティの欠如が問題視されていたため，自宅でも職場でもない公共の場で，人が集まり会話が発生することで，孤独感の低減や幸福感の向上が図れる機能を持つサードプレイスの必要性が提示された[1]．近年日本でも，一般的に，家や職場以外の第三の居場所とされ，他者との交流を図る場所として，一部の飲食店のコンセプトに取り入れられている．他にも，地方創生のためにサードプレイスとなるコミュニティや多世代が集まれる場所の運営等が，地方自治体等で行われている．このように，人と人とのつながりやコミュニティ等を提供するサードプレイスが浸透してきている．

また，幸福度や生活満足度に関して，幸福度指標の作成を通じて幸福の全体図を描き出そうとする試みが進められている．幸福度に関する取り組みとして，内閣府は平成23年に幸福度指標試案[2]を発表し，主観的幸福感を中心に様々な指標を統合して指標を作成する方針を提示している．その指標の１つとして、平成30年から「満足度・生活の質に関する指標群（ダッシュボード）」を構築することを目指し，生活満足度についての調査を実施している．「『満足度・生活の質に関する調査』に関する第2次報告書」[3] によれば，生活の楽しさ・面白さが総合主観満足度に大きく影響を与え，生活の楽しさ・面白さには友人との交流頻度，頼れる人の人数，ボランティアの頻度といった，人と人とのつながりが大きく影響していることが明らかになっている．そのため，人と人とのつながりを提供するサードプレイスが幸福感に関連していると考えられる．

一方，令和2年にCOVID-19（以下新型コロナ）の感染が広まり，東京を含めた（７都府県）が4月7日から，同月16日からは他の道府県が5月25日まで，国が緊急事態宣言を発令し，緊急事態措置が実施された．緊急事態措

置実施中では，施設や教育機関の休業や制限，外出自粛，個人の感染予防対策などの要請がなされ，リモートワーク等の仕事形態の変更や通勤手段，通勤時間の変更，外食や人が密集する場所への往来の制限がなされた．このような新型コロナによる災難や危機的状況が続き，現在，コロナ禍と呼ばれる状況にある．緊急事態宣言が解除された後も，感染防止のために人との接触を控え，密集を避けるよう，日常生活に対して人々の認識が変化している．そのため公共の場であり人が集まる場所となることの多いサードプレイスも，その利用の形態が大きく変化していると考えられる．

以上より，人と人とのつながりを提供するサードプレイスは，人々の幸福度を構築する重要な要素として関連していると考えられ，サードプレイスに大きく影響を及ぼしていると考えられるコロナ禍において，サードプレイスと人々の幸福度の関連性の把握が必要である．

サードプレイスに関する既存研究は，カフェや都心の職場環境，大学生，公共施設，ノマド学習等に注目し，その特徴等を調査した研究[4), 5), 6), 7)]が多い．また，まちなかの居場所と生活の質との関係性を明らかにしたものがみられたが，居場所と感じる心理的用途の違いから分析をしており，場所への移動手段や利用頻度等は明らかになっていない[8)]．幸福感との関連性を定量的に示したものは少なく，コロナ禍のサードプレイスと関連性を分析している研究はみられない．また，幸福感に関する既存研究は，高齢者や大学生に着目し、地域の活動や余暇との関連性を明らかにする研究[9), 10), 11)]，日常的移動の主観的幸福感への影響を示した研究[12)]などがあるが，サードプレイスに関する研究はみられない．そこで，コロナ禍におけるサードプレイスと幸福感との関係性を明らかにすることで、コロナ禍のサードプレイスの必要性、幸福感が高いサードプレイスの特徴が示されると考える．

そこで本研究では，生活の変化が大きいと考えられるコロナ禍において，サードプレイスを持つことが，幸福度にどのような関連性があるのかを明らかにすることを目的とする．研究の方法としては，アンケート調査を実施し，そのデータから幸福度に関連する要素を把握し，関連する項目の影響の大小関係を把握する．

2. 本研究の調査概要

(1) 調査概要と使用データ

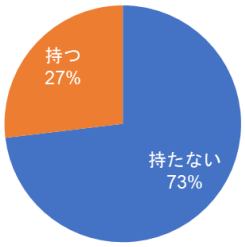
本研究のサードプレイスの定義を家と職場以外の日常生活で訪れる第3の居場所，居心地が良い，馴染み，お気に入りの場所，自ら積極的に行こうと思える場所，最低でも2，3か月程度に一度は訪れる場所，以上の4点を満たす場所とする．ただし，恋人や友人家などの私的な場所や生活上必要不可欠な場所は除く．また，サードプレイスの場所の例を既存研究を参考にアンケートに表示した．サードプレイスの場所の例を**表-1**に示す．

(2) アンケート調査の概要

本研究で行ったアンケート調査の概要を**表-2**に示す．今回実施した調査では，都市と地方の地域間の差を検証するために，東京都の20代から50代400人をサンプル対象にし，また，大都市圏（北海道，埼玉県，千葉県，東京都，神奈川県，愛知県，京都府，大阪府，兵庫県，福岡県）以外の37県の20代から50代400人をサンプル対象とし，Web調査を実施した．主な調査項目としては，コロナ禍のサードプレイスに関して，生活満足度や幸福度に関して，生活の嗜好性に関しての3つである．今回，Web によるアンケート調査を行ったため，バイアスによ調査対象の限定が留意するべき点と考えられる．

表-1 サードプレイスの場所の例

サードプレイスの例
カフェ・喫茶店，居酒屋・バー，通っている教室，部活・サークル，ジム・プール，公民館・地域活動，図書館，書店，釣り場，アパレルショップなどの飲食店以外の店舗，ゲームセンター・パチンコ，ネットカフェ・マンガ喫茶，公園，ストリート，ライブ会場・観戦場，エステ・サロン　等



(n=881)

図-1 サードプレイスの有無

表-2 アンケート調査の概要

調査名	日常的な「サードプレイス」についてのアンケート調査	
調査期間	2021年1月7日～10日	
回答数	888	
有効回答数	881	
形式	Web調査	
対象地域	東京都	大都市圏以外の37県
	439人	442人
調査対象年齢	20代から50代	
主な調査項目	・コロナ禍のサードプレイスに関して	
	・生活満足度や幸福度に関して	
	・生活の嗜好性に関して	

表-3 SWLS 尺度の質問項目と得点算出方法

質問項目
ほとんどの面で，私の人生は私の理想に近い。
私の人生は，とてもすばらしい状態だ。
私は自分の人生に満足している。
私はこれまで，自分の人生に求める大切なものを得てきた。
もう一度人生をやり直せるとしても，ほとんど何も変えないだろう。
得点算出方法
各質問7点満点×5問　得点範囲：5～35点
全く当てはまらない（1点）～非常によく当てはまる（7点）

(3) 主観的幸福感尺度（SWLS尺度）について

本研究では，人々の幸福感を測る指標として，主観的幸福感尺度（The Satisfaction With Life Scale : SWLS尺度）を導入する．SWLSはDienerら（1985）によって開発された5項目の質問から構成される尺度で，対象者は一般成人である．心理学者による幸福感の研究ではSWLSが最も頻繁に使用されており，土木分野でも使用が多いため，本研究でも，幸福感を測る指標として用いることとした．

SWLS得点の質問項目，得点方法について**表-3**に示す．合計点を算出して測定を行い，高得点であるほど回答者の主観的幸福感は高いと判断する[13]．以下，SWLS得点を用いた結果を主観的幸福感と示す．

(4) 生活嗜好性について

本研究では，人々の生活の嗜好性を測る指標として，個人の生活スタイルを考慮した分析をしている既存研究を参考に，7項目5件法の質問を作成した．生活嗜好性として，各項目5点満点で得点化し，「交流・外出軸」「個人軸」の2因子で回答者を4つのクラスターに分類した．質問項目とクラスター分析の結果を**表-4**に示す．

(5) 生活満足度について

本研究では，生活の満足度について内閣府の調査項目を参考に9項目（健康状態，家族関係，経済状況，就業の状況，職場の人間関係，生きがい，自由な時間・充実した余暇，友人関係，地域コミュニティ）との最後に生活総合満足度の質問を作成し，「非常に満足している」から「全く満足していない」の7件法で尋ねている．また，分析において「非常に満足している」，「だいたい満足している」，「やや満足している」を「満足している」に，「全く満足していない」，「ほとんど満足していない」，「少し満足していない」を「満足していない」に統合し，分析を行った．

表-4 生活嗜好性のクラスター分析の結果

質問項目	
人とおしゃべりするのが好き	
自宅で静かに過ごすことが好き	
誰かと一緒に過ごす時間が好き	
1人で過ごす時間が好き	
観光・行楽・レジャーに出かけるのが好き	
買物に出かけるのが好き	
通信販売・ネットショッピングを利用するのが好き	
クラスター名	n
個人嗜好性（高）	263
集団・外出嗜好性（高）	331
個人・集団嗜好性（低）	133
個人・集団嗜好性（高）	154

3. 主観的幸福感に関連する要素の分析

本章では，SWLS尺度を用いた結果を基に，主観的幸福感に関連する要素の分析を行う．SWLS得点は，回答者の割合がおよそ1/3ずつになるように分類した．分類の結果を**表-5**に示す．そして，各要素と主観的幸福感の独立性の検定を行うことにより，主観的幸福感との関連性，また，数量化分析により各要素の関連の把握を行った．

(1) 主観的幸福感とサードプレイスの有無との関連性

サードプレイスの有無と主観的幸福感との関連性を明らかにする分析を行った．その結果を**図-2**に示す．独立性の検定より，P値は0.0024であり，1%有意水準で統計的な差があることが明らかとなった．また，クロス集計の残差分析によると，サードプレイスを持たない人は1%有意水準で主観的幸福感が高い割合が低く，主観的幸福感低い割合が高いことが示された．また，サードプレイスを持つ人は主観的幸福感が高い割合が高く，主観的幸福感が低い割合が低いことが示された．

(2) 主観的幸福感と各要素との関連性

サードプレイスの有無の他に，主観的幸福感と関連する要素を把握するために，個人属性や生活の満足度，生活嗜好性についても，主観的幸福感と独立性の検定を行った．その結果，有意水準1%，5%で統計的な差が見られたものを**表-6**に示す．個人属性では，女性，専業主婦・主夫，学生，また東京の居住者の方が，主観的幸福

表-5 SWLS得点3分類

対象	全サンプル	
	得点（点）	n
主観的幸福感（高い）	22～35	277
主観的幸福感（中程度）	17～21	297
主観的幸福感（低い）	5～16	307
	計	881

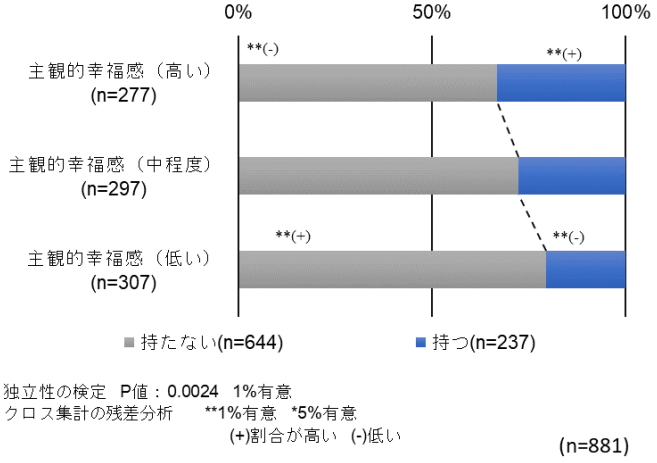


図-2 サードプレイスの有無と主観的幸福感との関連性

感が高かった．生活満足度では，各項目満足しているほど主観的幸福感が高かった．生活嗜好性に関しては，集団・外出嗜好性（高）と個人・集団嗜好性（高）が，主観的幸福感が高く，個人嗜好性（高）が主観的幸福感が低いことが分かった．

(3) 主観的幸福感予測モデル分析

主観的幸福感の得点を目的変数とし，主観的幸福感とのクロス集計で関連性がみられた項目を説明変数とした数量化Ⅰ類分析により，主観的幸福感予測モデルを作成した．その際，説明変数間で相関係数が0.4以上の項目や独立性の検定の結果と異なる項目は除いた．また，生活満足度に関しては，生きがいと生活総合満足度が主観的幸福感との相関が強く，同義とみなしたため外して分析を行った．結果を**図-3**に示す．各項目のレンジを見ると，最も大きいのは経済状況の満足度，つぎに友人関係の満足度，職種，サードプレイスの有無，居住地，性別の順となっており，サードプレイスの有無が性別と居住地よりも主観的幸福感に強く関連していることが示された．

表-6 主観的幸福感と個人属性，サードプレイス，生活満足度，生活嗜好性に関するクロス集計結果

	主観的幸福感			P値	
	高い	中程度	低い		
性別					
男性(n=440)	117(42.2%)	151(50.8%)	172(56.0%)	0.0037	**
女性(n=441)	160(57.8%)	146(49.2%)	135(44.0%)		
職種					
正規社員(n=452)	146(52.7%)	164(55.2%)	142(46.3%)	0.0000	**
非正規社員(n=158)	36(13.0%)	45(15.2%)	77(25.1%)		
専業主婦・主夫・学生(n=139)	69(24.9%)	47(15.8%)	23(7.5%)		
無職(n=73)	9(3.2%)	18(6.1%)	46(15.0%)		
自営業・自由業＋その他(n=59)	17(6.1%)	23(7.7%)	19(6.2%)		
居住地					
東京(n=439)	164(59.2%)	139(46.8%)	136(44.3%)	0.0000	**
地方(n=442)	113(40.8%)	158(53.2%)	171(55.7%)		
サードプレイスの有無					
あり(n=237)	92(33.2%)	82(27.6%)	63(20.5%)	0.0024	**
なし(n=644)	185(66.8%)	215(72.4%)	244(79.5%)		
経済状況の満足度					
満足している(n=276)	181(85.8%)	61(28.1%)	34(15.7%)	0.0000	**
どちらともいえない(n=272)	58(27.5%)	154(71.0%)	60(27.8%)		
満足していない(n=333)	38(18.0%)	82(37.8%)	213(98.6%)		
健康状態の満足度					
満足している(n=428)	215(101.9%)	113(52.1%)	100(46.3%)	0.0000	**
どちらともいえない(n=268)	40(19.0%)	135(62.2%)	93(43.1%)		
満足していない(n=185)	22(10.4%)	49(22.6%)	114(52.8%)		
家族関係の満足度					
満足している(n=484)	231(109.5%)	138(63.6%)	115(53.2%)	0.0000	**
どちらともいえない(n=260)	31(14.7%)	133(61.3%)	96(44.4%)		
満足していない(n=137)	15(7.1%)	26(12.0%)	96(44.4%)		
就業状況の満足度					
満足している(n=313)	179(84.8%)	82(37.8%)	52(24.1%)	0.0000	**
どちらともいえない(n=331)	62(29.4%)	161(74.2%)	108(50.0%)		
満足していない(n=237)	36(17.1%)	54(24.9%)	147(68.1%)		
職場の人間関係の満足度					
満足している(n=315)	173(82.0%)	87(40.1%)	55(25.5%)	0.0000	**
どちらともいえない(n=394)	84(39.8%)	174(80.2%)	136(63.0%)		
満足していない(n=172)	20(9.5%)	36(16.6%)	116(53.7%)		
自由な時間・充実した余暇の満足度					
満足している(n=384)	193(91.5%)	113(52.1%)	78(36.1%)	0.0000	**
どちらともいえない(n=273)	44(20.9%)	133(61.3%)	96(44.4%)		
満足していない(n=224)	40(19.0%)	51(23.5%)	133(61.6%)		
友人関係の満足度					
満足している(n=311)	179(84.8%)	76(35.0%)	56(25.9%)	0.0000	**
どちらともいえない(n=342)	64(30.3%)	160(73.7%)	118(54.6%)		
満足していない(n=228)	34(16.1%)	61(28.1%)	133(61.6%)		
地域コミュニティの満足度					
満足している(n=181)	117(55.5%)	34(15.7%)	30(13.9%)	0.0000	**
どちらともいえない(n=526)	130(61.6%)	217(100.0%)	179(82.9%)		
満足していない(n=174)	30(14.2%)	46(21.2%)	98(45.4%)		
生活嗜好性					
個人嗜好性（高）(n=263)	59(21.3%)	77(25.9%)	127(41.4%)	0.0000	**
集団・外出嗜好性（高）(n=331)	121(43.7%)	106(35.7%)	104(33.9%)		
個人・集団嗜好性（低）(n=133)	19(6.9%)	76(25.6%)	38(12.4%)		
個人・集団嗜好性（高）(n=154)	78(28.2%)	38(12.8%)	38(12.4%)		

独立性の検定　**：1%有意　*：5%有意

クロス集計の残差分析　下線　1%有意　　：5%有意

青字:期待度数より実測度数が高い　赤字:期待度数より実測度数が低い

4. サードプレイスを持つ人と持たない人の主観的幸福感に関連する要素の分析

3章では，全サンプルを用いて，主観的幸福感の予測モデルを作成し，分析を行った．4章では，サードプレイスを持つ人と持たない人に着目し，4章と同様に主観的幸福感予測モデルを作成し，幸福感を構成する要素の分析を行う．全サンプルを対象としたときと同様に，回答者の主観的幸福感を3つに再分類した．その結果を**表-7**に示す．

表-7 サードプレイスを持つ人とサードプレイスを持たない人のSWLS得点の3分類

対象	サードプレイスを持つ人		サードプレイスを持たない人	
	得点(点)	n	得点(点)	n
主観的幸福感（高い）	23～35	79	21～35	211
主観的幸福感（中程度）	18～22	83	16～20	217
主観的幸福感（低い）	5～17	75	5～15	216
	計	237	計	644

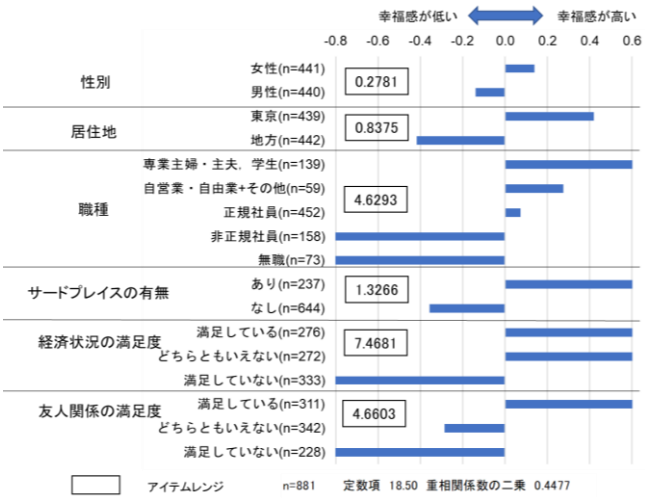


図-3 主観的幸福感予測モデル

(1) サードプレイスを持つ人の主観的幸福感と各要素の関連性

サードプレイスを持つ人の主観的幸福感とサードプレイス，個人属性，生活満足度，生活嗜好性の要素を独立性の検定により分析を行った．その結果，有意水準1%，5%で統計的な差が見られたものを**表-8**に示す．サードプレイスに関して，行く理由やいつから訪れているか，どこから訪れているか，移動時間，交通手段，頻度，満足度等で分析を行い，サードプレイスにいつから訪れていたか，どこから訪れているかの2つの項目で，有意水準5%で統計的な差が見られた．クロス集計の残差分析から，5年から10年前から訪れている場所が主観的幸福感が高く，自宅よりも職場から訪れている方が主観的幸福感が高いことが明らかとなった．

また，個人属性では，地方の居住者の方が主観的幸福感が低いことが示され，生活満足度に関しては全ての項目で、満足しているほど主観的幸福感が高いことが示された．生活嗜好性に関しては，個人・集団嗜好性（高）が，主観的幸福感が高く，個人嗜好性（高）が主観的幸福感が低いことが分かった．

(2) サードプレイスを持たない人の主観的幸福感と個人属性，生活満足度，生活嗜好性についての関連性

サードプレイスを持たない人の主観的幸福感と，個人属性や生活の満足度，生活嗜好性との独立性の検定を行

表-8 サードプレイスを持つ人の主観的幸福感と個人属性，サードプレイス，生活満足度，生活嗜好性に関するクロス集計結果

	主観的幸福感			P値	
	高い	中程度	低い		
居住地					
東京(n=124)	48(60.8%)	45(54.2%)	31(41.3%)	0.0497	*
地方(n=113)	31(39.2%)	38(45.8%)	44(58.7%)		
サードプレイスにいつから訪れていたか					
半年以内(n=19)	6(7.6%)	6(7.2%)	7(9.3%)	0.0464	*
半年以上前から(n=21)	8(10.1%)	9(10.8%)	4(5.3%)		
1年以上前から(n=89)	32(40.5%)	30(36.1%)	27(36.0%)		
5年以上前から(n=53)	25(31.6%)	13(15.7%)	15(20.0%)		
10年以上前から(n=55)	8(10.1%)	25(30.1%)	22(29.3%)		
サードプレイスにどこから訪れているか					
自宅から(n=212)	66(83.5%)	74(89.2%)	72(96.0%)	0.0421	*
職場から(n=25)	13(16.5%)	9(10.8%)	3(4.0%)		
経済状況の満足度					
満足している(n=80)	56(70.9%)	16(19.3%)	8(10.7%)	0.0000	**
どちらともいえない(n=67)	15(19.0%)	38(45.8%)	14(18.7%)		
満足していない(n=90)	8(10.1%)	29(34.9%)	53(70.7%)		
健康状態の満足度					
満足している(n=136)	69(87.3%)	37(44.6%)	30(40.0%)	0.0000	**
どちらともいえない(n=52)	10(12.7%)	26(31.3%)	16(21.3%)		
満足していない(n=49)	0(0.0%)	20(24.1%)	29(38.7%)		
家族関係の満足度					
満足している(n=147)	65(82.3%)	49(59.0%)	33(44.0%)	0.0000	**
どちらともいえない(n=54)	9(11.4%)	23(27.7%)	22(29.3%)		
満足していない(n=36)	5(6.3%)	11(13.3%)	20(26.7%)		
就業状況の満足度					
満足している(n=93)	55(69.6%)	27(32.5%)	11(14.7%)	0.0000	**
どちらともいえない(n=81)	18(22.8%)	36(43.4%)	27(36.0%)		
満足していない(n=63)	6(7.6%)	20(24.1%)	37(49.3%)		
職場の人間関係の満足度					
満足している(n=99)	53(67.1%)	34(41.0%)	12(16.0%)	0.0000	**
どちらともいえない(n=98)	26(32.9%)	34(41.0%)	38(50.7%)		
満足していない(n=40)	0(0.0%)	15(18.1%)	25(33.3%)		
自由な時間・充実した余暇の満足度					
満足している(n=128)	59(74.7%)	39(47.0%)	30(40.0%)	0.0000	**
どちらともいえない(n=61)	13(16.5%)	32(38.6%)	16(21.3%)		
満足していない(n=48)	7(8.9%)	12(14.5%)	29(38.7%)		
友人関係の満足度					
満足している(n=102)	53(67.1%)	27(32.5%)	22(29.3%)	0.0000	**
どちらともいえない(n=77)	17(21.5%)	37(44.6%)	23(30.7%)		
満足していない(n=58)	9(11.4%)	19(22.9%)	30(40.0%)		
地域コミュニティの満足度					
満足している(n=59)	39(49.4%)	12(14.5%)	8(10.7%)	0.0000	**
どちらともいえない(n=133)	34(43.0%)	56(67.5%)	43(57.3%)		
満足していない(n=45)	6(7.6%)	15(18.1%)	24(32.0%)		
生活嗜好性					
個人嗜好性（高）(n=45)	9(11.4%)	14(16.9%)	22(29.3%)	0.0016	**
集団・外出嗜好性（高）(n=108)	41(51.9%)	36(43.4%)	31(41.3%)		
個人・集団嗜好性（低）(n=24)	2(2.5%)	15(18.1%)	7(9.3%)		
個人・集団嗜好性（高）(n=60)	27(34.2%)	18(21.7%)	15(20.0%)		

独立性の検定　**：1%有意　*：5%有意

クロス集計の残差分析　下線　1%有意　　：5%有意

青字:期待度数より実測度数が高い　赤字:期待度数より実測度数が低い

表-9 サードプレイスを持たない人の主観的幸福感と個人属性，生活満足度，生活嗜好性に関するクロス集計結果

	主観的幸福感			P値	
	高い	中程度	低い		
性別					
男性(n=317)	88(41.7%)	111(51.2%)	118(54.6%)	0.0222	*
女性(n=327)	123(58.3%)	106(48.8%)	98(45.4%)		
職種					
正規社員(n=317)	107(50.7%)	120(55.3%)	90(41.7%)	0.0000	**
非正規社員(n=121)	24(11.4%)	35(16.1%)	62(28.7%)		
専業主婦・主夫・学生(n=106)	60(28.4%)	30(13.8%)	16(7.4%)		
無職(n=61)	6(2.8%)	20(9.2%)	35(16.2%)		
自営業・自由業＋その他(n=39)	14(6.6%)	12(5.5%)	13(6.0%)		
居住地					
東京(n=315)	122(57.8%)	98(45.2%)	95(44.0%)	0.0067	**
地方(n=329)	89(42.2%)	119(54.8%)	121(56.0%)		
経済状況の満足度					
満足している(n=196)	128(60.7%)	47(21.7%)	21(9.7%)	0.0000	**
どちらともいえない(n=205)	50(23.7%)	118(54.4%)	37(17.1%)		
満足していない(n=243)	33(15.6%)	52(24.0%)	158(73.1%)		
健康状態の満足度					
満足している(n=292)	149(70.6%)	78(35.9%)	65(30.1%)	0.0000	**
どちらともいえない(n=216)	38(18.0%)	110(50.7%)	68(31.5%)		
満足していない(n=136)	24(11.4%)	29(13.4%)	83(38.4%)		
家族関係の満足度					
満足している(n=337)	172(81.5%)	88(40.6%)	77(35.6%)	0.0000	**
どちらともいえない(n=206)	30(14.2%)	112(51.6%)	64(29.6%)		
満足していない(n=101)	9(4.3%)	17(7.8%)	75(34.7%)		
就業状況の満足度					
満足している(n=220)	122(57.8%)	60(27.6%)	38(17.6%)	0.0000	**
どちらともいえない(n=250)	60(28.4%)	120(55.3%)	70(32.4%)		
満足していない(n=174)	29(13.7%)	37(17.1%)	108(50.0%)		
職場の人間関係の満足度					
満足している(n=216)	119(56.4%)	54(24.9%)	43(19.9%)	0.0000	**
どちらともいえない(n=296)	72(34.1%)	135(62.2%)	89(41.2%)		
満足していない(n=132)	20(9.5%)	28(12.9%)	84(38.9%)		
自由な時間・充実した余暇の満足度					
満足している(n=256)	137(64.9%)	69(31.8%)	50(23.1%)	0.0000	**
どちらともいえない(n=212)	38(18.0%)	104(47.9%)	70(32.4%)		
満足していない(n=176)	36(17.1%)	44(20.3%)	96(44.4%)		
友人関係の満足度					
満足している(n=209)	126(59.7%)	49(22.6%)	34(15.7%)	0.0000	**
どちらともいえない(n=265)	57(27.0%)	129(59.4%)	79(36.6%)		
満足していない(n=170)	28(13.3%)	39(18.0%)	103(47.7%)		
地域コミュニティの満足度					
満足している(n=122)	80(37.9%)	22(10.1%)	20(9.3%)	0.0000	**
どちらともいえない(n=393)	106(50.2%)	163(75.1%)	124(57.4%)		
満足していない(n=129)	25(11.8%)	32(14.7%)	72(33.3%)		
生活嗜好性					
個人嗜好性（高）(n=218)	56(26.5%)	65(30.0%)	97(44.9%)	0.0000	**
集団・外出嗜好性（高）(n=223)	82(38.9%)	75(34.6%)	66(30.6%)		
個人・集団嗜好性（低）(n=109)	24(11.4%)	55(25.3%)	30(13.9%)		
個人・集団嗜好性（高）(n=94)	49(23.2%)	22(10.1%)	23(10.6%)		

独立性の検定　**：1%有意　*：5%有意

クロス集計の残差分析　下線　1%有意　　：5%有意

青字:期待度数より実測度数が高い　赤字:期待度数より実測度数が低い

った．有意水準1%，5%で統計的な差が見られたものを表-9に示す．個人属性について，女性，専業主婦・主夫，学生，東京の居住者が，主観的幸福感が高いことが分かった．生活満足度に関しては，満足しているほど主観的幸福感が高く，生活嗜好性に関しては，集団・外出嗜好性（高）と個人・集団嗜好性（高）が主観的幸福感が高く，個人嗜好性（高）が主観的幸福感が低いことが分かった．これは全サンプルを対象とした場合と同様の結果である．

(3) サードプレイスを持つ人の主観的幸福感予測モデル分析

サードプレイスを持つ人の主観的幸福感の得点を目的変数とし，主観的幸福感とのクロス集計で関連性が見られた項目を説明変数とした数量化 I 類分析を，3章と同様に行った．それにより主観的幸福感予測モデルの作成をした．結果を図-4に示す．各項目のレンジを見ると，最も大きいのは経済状況の満足度，つぎに地域コミュニティの満足度，生活嗜好性，サードプレイスにいつから訪れていたか，サードプレイスにどこから訪れているか，居住地となっており，主観的幸福感の構成要素として確認された．

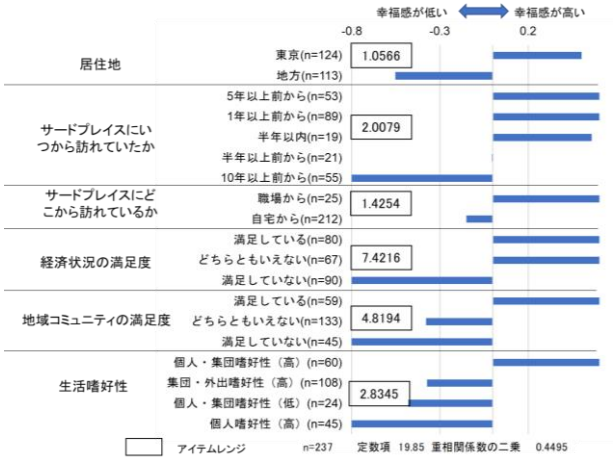


図-4 サードプレイスを持つ人の主観的幸福感予測モデル

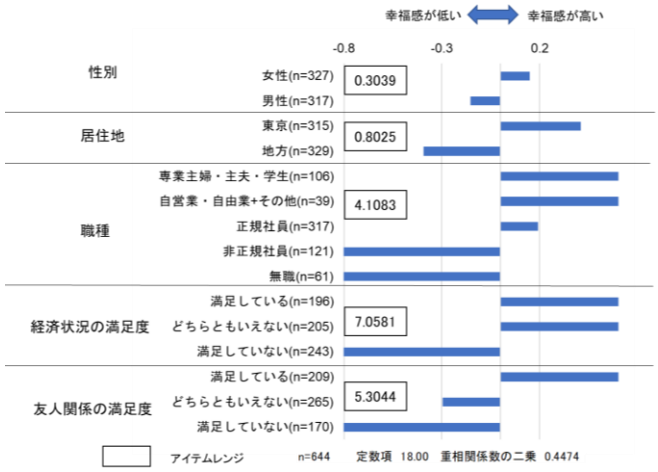


図-5 サードプレイスを持たない人の主観的幸福感予測モデル

(4) サードプレイスを持たない人の主観的幸福感予測モデル分析

サードプレイスを持たない人主観的幸福感の得点を目的変数とし，主観的幸福感とのクロス集計で関連性が見られた項目を説明変数とした数量化 I 類分析により，主観的幸福感予測モデルの作成をした．その際，説明変数間で相関係数 0.4 以上の項目や独立性の検定の結果と異なる項目は除いた．結果を図-5 に示す．各項目のレンジを見ると，最も大きいのは経済状況の満足度，つぎに友人関係の満足度，職種，居住地，性別となっており，これはサードプレイスの有無を除いて，全サンプルを対象とした場合と同様の結果になった．

5. 結論

本研究では、コロナ禍におけるサードプレイスと主観的幸福感の関連性に着目し，サードプレイスを持つことと主観的幸福感との関連性，またどのようなサードプレイスを持つと主観的幸福感が高いかの分析を行った．

まず，主観的幸福感が「低い」「中程度」「高い」に個人を分類し、サードプレイスを持つ人と持たない人で主観的幸福感との関連性を分析すると，サードプレイスを持つ人が主観的幸福感が高く，サードプレイスを持たない人が主観的幸福感が低いことが示された．次に，主観的幸福感を構成する項目として，サードプレイスの関連性の大きさを検討するために，個人属性や生活の満足度，生活嗜好性の項目を取り入れ分析を行った．その結果，生活の満足度が最も主観的幸福感との関連性が大きく，次に職種，サードプレイスの有無，居住地，性別の順となっており，サードプレイスの有無は，居住地や性別よりも関連性が強いことが示された．

サードプレイスを持つ人に着目し，サードプレイスの種類や行く頻度，行く目的等のサードプレイスの要素と主観的幸福感との関連を見た結果，サードプレイスにどこから訪れているか，いつから訪れていたのか2つの要素が関連性を示し，自宅よりも職場から訪れている人，5～10年前から訪れているサードプレイスを持つ人が主観的幸福感が高いことが明らかとなった．次に主観的幸福感との関連の大きさを分析した結果，生活満足度，生活嗜好性，サードプレイスにいつから訪れていたか，どこから訪れているか，居住地の順で関連性が見られ，サードプレイスの要素は，居住地よりも主観的幸福感との関連性が大きいことが示された．

また，サードプレイスを持たない人に関する分析では，

経済状況の満足度，友人関係の満足度，職種，居住地，性別の順で主観的幸福感の関連性が強く見られ，これはサードプレイスの有無を除いた全サンプルを対象とした結果と同様の結果が示された.

なお，本研究では，Web調査をバイアスとして利用したため，限定した対象者での調査とであることが留意点として考えられる．また，分析に関して主観的幸福感とサードプレイスの関連性，またその関連の大きさの把握を行っている．しかし，居住地や，交通手段，生活嗜好性によって，サードプレイスの有無と主観的幸福感の関連性が異なっているということも考えられる．生活嗜好性や居住地を限定した場合，サードプレイスを持つことと主観的幸福感の関連性がどのように強く出るのか，今後はこのような詳細な分析も行っていきたい.

参考文献

1) Ray Oldenburg（忠平美幸訳）：サードプレイス‐コミュニティの核になる「とびきり居心地よい場所」
2) 内閣府：幸福度に関する研究会報告‐幸福度指標試案‐
3) 内閣府：「満足度・生活の質に関する調査」に関する第 2 次報告書
4) 林田大作，舟橋國男，木多道宏：職場周辺に構築させる「サードプレイス」に関する研究，日本建築学会計画系論文集，Vol.80，No.711，pp1067‐1073，2003.
5) 遠藤瞭太，後藤春彦，山村崇：大学生の学習場所としてのサードプレイスに関する研究，都市計画論文集，Vol.49，No.3，2014.
6) 畠山雄豪，丹羽由佳理，佐野友紀，菊池雄介，佐藤泰：立地環境および利用者傾向が行動分布に与える影響 行動観察調査からみたカフェのサードプレイス利用分析‐その１‐，日本建築学会計画系論文集，第 80 巻　第 711 号，1067‐1073，2015.
7) 木下誠一，矢部亮，今井正次：居場所としての地域公共施設のあり方に関する研究‐三重県における居場所選択特性と地域差‐，日本建築学会計画系論文集，第 73 巻，第 628 号，1205‐1212，2008.
8) 川村竜之介，谷口綾子：まちなかの居場所が生活の質・地域への意識に与える影響に関する研究，土木学会論文 D3，Vol.69，No.5，I_335－I_344，2013.
本間仁，安芸皓一：物部水理学，pp.430-463，岩波書店，1962.
9) 菅野健，大森宣暁，長田哲平：大学生の余暇活動と主観的幸福感，土木学会論文集 D3，Vol.74，No.5，I_809－I_816，2018.
10) 橋本成仁，厚海尚哉：高齢者の余暇活動と主観的幸福感に関する研究，土木学会論文集 D3，Vol.71，No.5，I_567‐I_576，2015.
11) 橋本成仁，恒藤佑輔：住民主体による生活交通運営活動への参加意識と住民の主観的幸福感との関係に関する研究，都市計画論文集，Vol.53，No.2，2018.
12) 北川夏樹，鈴木春奈，中井周作，藤井聡：日常的な移動が主観的幸福感に及ぼす影響に関する研究，土木学会論文集 D3，Vol.67，No.5，I_697－I_703，2011.
13) 大石繁宏：幸せを科学する‐心理学からわかったこと，新曜社，2009

(?)

A STUDY OF THIRD PLACE AND SUBJECTIVE WELL-BEING IN THE COVID-19 EPIDEMIC

Seiji HASHIMOTO,Yoko IMAMURA, Haruka UNO and Hirofumi HORI

In recent years, the concept of "third place" has become widespread. The third place is a third place other than home and work, and was proposed in 1989 to reduce issues such as loneliness and lack of community. In addition, it is considered that the form of use of the third place is changing due to the restriction of interaction with people by the COVID-19 epidemic. Therefore, the purpose of this study is to clarify how having a third place is related to subjective well-being by using the subjective well-being scale (SWLS) by under the COVID-19 epidemic. As a result, it was shown that those who have a third place have a high subjective feeling of well-being, and those who have a third place that has been visiting for 5 to 10 years and those who have a third place visiting from the workplace have a high subjective feeling of well-being.